

片岡球子展の会期も、残すところあと2週間を切りました。先日の日曜美術館の放映もあり、ますます多くのお客様で賑わう展示室…。一方でバックヤードにある収蔵庫では、学芸員による一大プロジェクトが粛々と進行していました。

今回ご紹介するプロジェクトは「管理状況確認作業」、通称「棚卸し」です！愛知県美術館のコレクションはとても充実しており、膨大な数の作品が所蔵されています。その管理をするのも学芸員の大切な仕事のひとつ。美術館の方向性を決める大事な館蔵品を、プロジェクトチームが一点一点確認していきます。



▲まずは作品を探すところから。大体の場所を割り出したら、あとは経験が頼り…！作品カードと照合しながら作品があることを確認していきます。

もちろん一口に確認と言っても、「作品はあります！」では終わりません。いつ収蔵されたのか、どこから収蔵されたのか、どこにあるのか、どんな状態で保管されているのか…。こういった細かい情報

を点検し、記録していきます。この情報が次回プロジェクトチームへと引き継がれることで、所蔵作品が末永く、かつ、きっちりと管理されていくのです。



▲記録中。事前に作成した「作品リスト」と、作品の戸籍である「作品カード」の両方に、確認した情報を記録していきます。

今回の点検では、作品の梱包状態と付属物の両方を記録しています。例えば今回調査を行った収蔵庫では、洋画なら大体のものが「黄袋、たとう（外箱）、エアキャップ（ぷちぷち）」の三位一体セットで梱包され、保管されています。

しかし、これが掛け軸となると情報が激増！「紐下（関東では「巻止め」らしい）、薄葉紙（特に日本美術の梱包で大活躍な薄い紙）、葉籠箱（関東では「印籠箱」らしい）、台指箱（いつもの桐箱）、文書入ってます！極めもついています！あ、昔の売立目録も！」となり、情報の大洪水…。その水面下では関西呼びか関東呼びかの派閥争いもありそうですね…。ちなみに執筆者は関西人です。



▲さらに近年収蔵された作品の中には、まだ作品カードに写真がないものも。収蔵品の整理を兼ねて、この機会に撮影も行います。



▲同時に、作品の名札になる「絵符」をつけて見やすくしたり、並べ直したり。当館は地震対策に「さ

らし」を駆使していますが、不測の事態に備え、まき直しやさらしの点検もこの機会に行ってしまいます。日頃の備えが肝心ですね！

以上のように確認された情報は、今後の作品の保存や公開にも大きく役立ってきます。連綿と続いてきたデータをもとに、ホームページで「コレクション検索」を公開したり、企画展に併せてコレクション展を企画したり…。地道な作業の連続ですが、館蔵品はその美術館を特色付ける大切な財産。歴代プロジェクトチームの（時々冷）汗と（おそらく嬉し）涙の上に、美術館とコレクション展は成り立っています。

ちなみにこのコレクション展、2015年10月16日（金）からは大規模な「コレクション企画」として、《線の美学》という展覧会が予定されています。オール館蔵品による、線の美しさと面白さ、可能性と魅力が詰まった展覧会です。愛知県美術館の底力、とくにご覧ください！

(y.y)